

海外での医療貢献を考える

北区 支援、人材育成で意見交換

海外での医療分野の貢献を考える「国際医療貢献フォーラム」が14日、岡山市北区桑田町のメルパルク岡山で開かれた。自治体や医

療機関、NPOなど約20団体、主にアジア地域で取り進む医療支援や人材育成について意見交換した。国際貢献を医療に限らな

い活動に発展させようと、県と国際医療NGO「AMDA（アムダ）」が企画。関心のある市民や医療関係者ら約1000人が参加した。

ベトナムなどに赴き、子どもたちの心臓手術に携わってきた佐野俊二・岡山大教授

は「世界では、年1500万人の子どもが手術さえ受けられずに亡くなっている」とし、約10年前から東南アジア各国から患者を受け入れていることを紹介。

現在は技術支援スタッフの派遣や留学生の受け入れを進めており、「私一人のボ

ランティアでは限界があるが、（人材育成の）研修を受けたチームが自国の子どもを助けられるようになる」と意義を訴えていた。

県の担当者は「医療と他分野の交流の場とし、新たな取り組みが生まれるきっかけになれば」と話した。